□■2 年越しの開催！CARE ASIA イベントレポート■□

CARE ASIA イベントロゴ

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの柴田です。

今回は、タイ最大級のヘルスケア関連の展示会、「CARE ASIA 2022」についてレポートをいたします。

CARE ASIA は、2022 年 9 月 1 日(木)-4 日(日)の 4 日間に渡り、BITEC で開催されました。CARE ASIA は、冒頭でも述べた通り、国内最大級のヘルスケア関連の展示会で、コロナ以前にはタイ国内外からの来場者で賑わいを見せていました。最後に同展示会が行われたのは 2019 年で、当時は「CARE EXPO」というイベント名で開催されていました。その後、コロナウイルスの流行による影響で、2020 年、2021 年の開催は延期され、2022 年 9 月に「CARE ASIA」に展示会の名称を変え、ようやく開催へとこぎつけました。

主催者の発表では、開催期間 4 日間の来場者数は、合計 14,497 人でそのうちタイ人が 14,414 人とタイ国内からの参加者が殆どを占めました。合計の来場者数を見ますと、コロナ前に開催された展示会の来場者数が、20,181 人でしたので、それでも、会場には企業から個人の方まで来場者が多く見られ、タイ国内のヘルスケアへの関心の高まりを肌で感じることができました。

しまね産業振興財団が出展をした 3 ブース

島根県からはしまね産業振興財団としてブース出展し、その中に計 11 社の島根県企業様の製品を展示いたしました。ご出展頂いた企業様は、自動排泄処理装置や車椅子用のジェルクッションといった介護製品を扱う企業様から、プロテインやサプリメントなどの健康食品を扱う企業様まで多岐に渡りました。

特に健康食品のエリアには、多くの来場者が足を止め、製品の説明を受けたり、試食や試飲をいただくなど賑わいを見せました。この展示会には、健康食品や医療・介護用品を扱うバイヤーさんだけでなく、一般の方も参加が可能でしたので、ヘルスケアに関心の高い、個人の方もブースには多く来場をされ、そういった方々からは特に健康食品について、試食をされた商品を実際に購入したい、というお声もいただくなど、非常に好意的なご意見をいただきました。

また、介護製品などについても、各参加企業様より実際の製品を日本からお送りいただいたため、実際に製品のデモを行ったり、製品をご利用いただくことで、来場者の皆様から多くのフィードバックをいただきました。

その中でも特に、企業の皆様が実際に現地の会場にご参加されたリバティソリューション様については、製品の具体的な利用方法について注意点等を交えながらデモをいただいたため、展示会場に来場をいただいたバイヤーの方と、そのまま商談に入られるなど、特に多くの来場者の方々の注目を集めました。

展示会全体の出展企業を見ますと、様々なサービスや製品の展示をされている中でも、特に介護用ベッドや車椅子などの高齢者ケア製品と、健康食品が割合としては多かったように感じます。特に高齢者ケアについては、高齢化が進むタイにおいて喫緊の課題となっており、政府としても対策が迫られる分野になります。

タイの高齢者委員会（National Commission on Older Persons）作成のレポート「SITUATION OF THE THAI OLDER PERSONS 2020」によると、タイは 2020 年の時点で、60 歳以上の高齢者の総人口に対する割合が 18%を超えており、既に高齢化社会に突入しています。今後も高齢者の割合は増加していき、2040 年には 60 歳以上の人口が、全体の約 30%を占めることが予測されています。高齢化は、過去の日本と比較しても早いスピードで進んでいます。

この急速に進む高齢化への対応が急務ですが、タイには介護保険という制度がないため高齢者の半数以上が生活費不足を問題としているというレポートがあるなど、資金面での問題や、高齢者向けの介護施設不足などハード面での問題、また、タイには「親の面倒は子どもが見るもの」という考えが根強く残っており、施設に親を預けることに抵抗がある、世間の目を気にするなどといった心理面での問題など、解決すべき課題を非常に多く抱えています。

タイの高齢者ケア、介護分野はまだまだ未成熟であるため、既に長く高齢化社会を経験している日本が持つ製品や技術、サービスに加え、高齢者ケアに関するノウハウが必要とされています。日本製品＝高品質というのは産業に関わらず、タイの方が広く持たれているイメージだと感じますし、高齢者ケアの分野についても同様であると言えます。その一方で、日本製品＝高価、高級品という印象を持たれているのも事実であり、実際にブースに頂いた方からも製品の価格についてコメントをいただく場面もありました。

展示会に出展をすることで、こういった海外現地の生の声を聞くことができ、また、実際の製品を展示することで、その先のビジネスにつながるチャンスを得られるなど、大きなメリットがあると考えます。日本と海外の往来についても、各種規制が緩和されていますので、海外市場の様子を探る上でも、展示会への出展、視察というのは１つ効果的な手段ではないでしょうか。

来年 2023 年の CARE ASIA は 8 月 31 日（木）から 9 月 3 日（日）の 4 日間での開催を予定しております。会場や展示申込みの受付などは今後発表されていきますが、企業様単独でのご参加も可能ですので、ご関心があればぜひ出展をご検討ください。

□■バンコク野外映画祭■□

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、アイです。

現在では、インターネットやスマートフォンといったデバイスの恩恵を受け、映画や音楽などの娯楽は非常に身近にあります。そんな便利な現代では、レコード、ページャー（ポケベル）、ラジオ、カセットテープなどが、「手間を楽しむ」という考え方とともに、そのレトロな魅力も相まって、一部の若者の間で流行しているという話を聞きます。

そんな中、タイで今、新たな娯楽として注目を集めているのが野外映画で、７月にはバンコク野外映画祭が開かれました。

出典：BMA Data Center（https://www.facebook.com/prbangkok?_rdc=1&_rdr）

【タイにおける映画の歴史】

タイで映画上映が始まったのは 1897 年で、移動式劇場というかたちで西洋人によって初めて持ち込まれました。この新たな娯楽は国内で大きな話題となりましたが、国内各地での需要の高まりに、移動式という形態が対応しきれず、その移動式の劇場が常設化されたものが野外映画となります。当時の映画は、夜だけにしか上映ができず、使用される機材はスクリーンとなる巨大な白い布、スピーカー、映写機と映画のフィルムだけでした。

【時代の流れにのまれた野外映画】

野外映画の魅力は、夜にしか楽しむことのできないエンターテインメントとして、広いスペースに大きなスクリーンが設置され、参加者は自分の好きな場所で、気のおけない人とたちと、くつろぎながら鑑賞できる点でしょうか。カップルや家族、食事をとりながら、お酒を飲みながらなど、人それぞれ自分に合った楽しみ方ができる、映画館とは違った自由度の高さも大きな魅力の一つです。また、1 人で参加しても、その場で出会った人と一緒に鑑賞することで新たな人とのつながりができるなど、人間関係を構築する絶好の機会でもあります。

ところが、映画館の普及や設備の進化により、その貴重な体験をする機会は失われてしまいました。現在、映画好きの人たちは、最新の映画を映画館で、最新の設備で楽しめるようになりました。その一方で、地域の憩いの場、コミュニティの役割を持ち、野外で気軽に参加できる野外映画はその人気を失ってしまいました。現在では、野外映画というものは特別なイベントの時に限って開催されるもの、という位置づけに落ち着きました。

【バンコク野外映画祭開催のきっかけ】

このバンコク野外映画祭は、新バンコク市長チャッチャート・シティパン氏の、「12 か月・12 祭典」というプロジェクトの一環として開催されました。この「12 か月・12 祭典」とは、音楽や読書など毎月のテーマを設

定し、そのテーマに沿ったイベントを実施するというものです。バンコクやその近郊に住む人達が、月ごとに様々なイベントへ参加でき、経済循環のきっかけにもなることを期待し、打ち出された方針です。

このプロジェクトのうちの 1 つとして、「映画」をテーマにして 7 月に開催されたのが、バンコク野外映画際になります。イベントは 7 月中の毎週末行われ、上映作品は、古いものは 1959 年に制作されたものから、現代の作品に至るまで、新旧さまざまな作品が期間中計 25 本上映されました。上映場所は毎週異なり、それぞれの上映映画が撮影された場所が会場となりました。

野外映画祭というイベントの珍しさや、上映作品も映画館で見ることのできない古い作品が多かったこともあり、イベントへの関心は高く、多くの参加者が集まりました。天候に恵まれず雨が降る日もありましたが、かっぱを着たり傘をさしたりしながらイベントを楽しむ人も多く見受けられました。イベント会場では、映画の上映だけでなく、食べ物の屋台があったり、バンドの生演奏も行われました。

バンコク野外映画祭は、大好評のうちに終了し、社会に好意的に受け止められました。目標の 1 つであった、コロナ後のバンコクを盛り上げる活動という役割を全うしました。ただ、このバンコク野外映画際が行われるきっかけとなった、「12 か月・12 祭典」は、現状 2022 年のみの開催とされており、2023 年以降の同様のイベントの開催については、今後検討がされることとなっています。

出典：Sarakadee Lite/LINE TODAY (https://today.line.me/th/v2/article/EXMm8ok)

※サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当：神谷　靖子　Yasuko　Kamiya
Address　: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110
Tel　: +66-(0)-2-261-1058
Mobile　: +66-(0)-89-200-7763
Mail　: shimane-bizsup@aapth.com

➢ タイ経済指標

項目	単位	2019	2020	2021	2022
GDP 成長率	前年比（%）	2.4	-6.2	1.8	2.4（1～6 月）
人口*	千人	68,021	68,152	68,161（1 月）	69,819（22 年 6 月）
労働者の数*	千人	38,207	39,451	38,631	39,764（6 月）
失業率**	%	0.99	1.62	1.94	1.45（1～6 月）
最低賃金* バンコク	バーツ／日	325	331	331	331
チョンブリー		330	336	336	336
アユタヤー		320	325	325	325
ラヨーン		330	335	335	335
賃金：全国製造業の平均	バーツ	13,131	13,562	13,506	14,297（1～6 月）
インフレ率**	前年比（%）	0.71	-0.84	1.24	5.89（7 月）
中央銀行政策金利*	%	1.25	0.50	0.50	0.75（8 月）
普通貯金率**	%	0.47	0.31	0.25	0.25（8 月）
ローン金利(MLR) **	%	6.29	5.60	5.42	5.42（8 月）
SET 指数*	1975 年：100	1,579.84	1,449.35	1,657.62	1,638.93（8 月）
バーツ／100 円**	バーツ	28.48	29.33	29.15	27.27 (8 月)
バーツ／米ドル**	バーツ	31.05	31.29	31.98	34.32 (8 月)
円／米ドル**	円	109	106.8	109.8	126.14 (8 月)
車販売台数（1 月からの累計）	台数	1,019,602	779,857	736,716	519,763（7 月）
BOI 認可プロジェクト	件数	1,500	1,501	1,572	750（22 年 6 月）
BOI 認可プロジェクト金額	10 億バーツ	447.36	361.41	511.9	375.67（22 年 6 月）

*期末、**平均